2015度日本海洋学会秋季評議員会　議事録

日時 2015月9月27日（日）　18：00～20：50

場所 愛媛大学共通教育講義棟講31教室

出席者 日比谷会長、神田副会長、秋友、安藤、石坂、磯辺、市川(香)、市川(洋)、伊藤、上、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、小畑、郭（大会事務局長）、加藤、蒲生、河野、河宮、轡田、久保川、倉賀野、根田、齊藤(誠)、齊藤(宏)、杉崎、武岡（大会実行委員長）、津田、中村、西岡、羽角、原田、広瀬、深澤、本多、升本、松野、道田、三寺、見延、安田、山中、吉川各評議員（46名）

野村環境科学賞選考委員長、速水海洋環境問題研究会会長、小埜幹事、東塚幹事、毎日学術フォーラム(小野、平坂)

委任状 磯田、岩坂、久保田、須賀、武田、千葉、中田、中野、花輪、古谷、柳各評議員(11名)

開会に先立ち、集会担当幹事から出席者数の確認があり、評議員会細則第3条の規定により、評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。引き続き日比谷会長から発言があり、本年6月に逝去された故岩宮浩名誉会員に黙祷を捧げた。

１．会長挨拶　（日比谷会長）

愛媛大学を中心とする大会実行委員会へのお礼が伝えられた。

時長会員の平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞、IUGG第26回総会における山形俊男会員のIAPSOアルベールⅠ世メダルの受賞、第8回海洋立国推進功労者としての道田豊会員、高田秀重会員の表彰が報告された。

幹事会および2016年度春季大会実行委員会で、大会開催方法の見直しが検討され、2016年度春季大会におけるセッション制導入について、会員にメーリングリストによる周知を行ったことが報告された。また、海洋学会春季大会をJpGU合同大会と合同で開催することについても、評議員および会員宛てに別途メーリングリストを通じて提案したことが報告された。

マスタープラン2017の新規提案に向けて幹事会でWGを結成し、他学会との連携が重視されていることを反映させた提案を9月15日に日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会に提出したことが報告された。

２．大会委員長挨拶（武岡英隆大会実行委員長）

評議員会当日までの大会参加者数、発表数、シンポジウム数、ナイトセッション数などが報告されるとともに、今大会は、学生のポスター発表に賞を設けたこと、会期中のサイエンスカフェが極めて盛況だったことなどが報告された。今回の愛媛大学での海洋学会秋季大会は大型連休の後になったこともあり、プランクトン学会、ベントス学会との合同大会だった前回と比べると参加者があまり多くなかったが、その分、講演１件あたりの発表時間を20分に延ばせたことが報告された。

３．報告事項

１）会務報告

庶務（小畑幹事）

2015年度1月から7月の会員異動状況について報告があった。2015年7月現在の会員数は1718名で、49名減少したことが報告された。

春季・秋季大会のシンポジウム等の開催・共催および協賛・後援等の状況について報告があった。

編集

1. JO（石坂編集委員長）

編集委員および委員長の交代、71巻5号までの発刊状況についての報告があった。Hot spot特集号が刊行されること、大震災特集号が来年刊行予定であることが報告されるとともに、論文投稿・受理状況、インパクトファクターの状況について報告があった。また、特集セクション号への投稿論文については、編集委員が最終チェックをすることにしていたが、編集委員の負担が大きいこと、海外からの特集セクションも積極的に受け入れたいため、投稿規定の作成を検討することが報告された。さらに、論文発表時の倫理問題に関して報告があった。

1. 海の研究（市川編集委員長）

2015年度3号、4号を発行したこと、5号の発行が遅れていたが、まもなく発行できることが報告された。また、現在の投稿・編集状況、編集委員の交代、投稿規定の告知、文献検索データベースに海の研究の掲載論文を加えるためのEBSCO社との契約、編集ガイドラインの作成などについて報告があった。

1. JOSニュースレター（津田編集委員長）

5巻1号、2号の刊行、3号の原稿締め切りについて報告された。巻頭記事が不足しているため、協力が求められた。

研究発表（山中幹事）

2015年度秋季大会が愛媛地区の会員により開催されていること、2016年度春季大会の準備状況と今後のスケジュールについて報告された。プログラム編成委員会の設置及び2017年度春季大会のJpGU-AGU合同大会への合流について検討していることなどが報告された。

賞選考

1. 学会賞・岡田賞・宇田賞（古谷委員長代理植松評議員）

選考過程について報告があった。

1. 日高論文賞・奨励論文賞（秋友委員長）

日高論文賞の選考過程について報告があった。奨励論文賞については2014、2015年の発行論文が対象のため、これから選考を開始する予定であることが報告された。

1. 環境科学賞（野村委員長）

選考過程について報告があった。

選挙管理（山中幹事）

各賞可否投票および賞選考委員半数改選の選挙管理委員会の設置、スケジュールについて報告があった。

広報委員会（原田委員長）

委員会メンバーの決定、広報委員会の活動が報告された。

海洋環境委員会（鈴村委員長代理小埜幹事）

11月の幹事会まで青い海助成事業の審査を延長することが報告された。

　　海洋環境問題研究会（速水研究会会長）

会員数が1名増え28名になったこと、研究会の会合、シンポジウムの開催、ウエブページの移動が報告された。

沿岸海洋研究会（門谷研究会会長代理加藤評議員）

沿岸海洋研究53号1巻の発送、沿岸海洋研究会および水産海洋学会の共催によるシンポジウム開催、沿岸海洋研究会の会合での議事内容などが報告された。

　　教育問題研究会（轡田研究会会長）

会員数が2名増え45名になったことが報告された。資料に基づき、2015年度の活動内容および計画について報告があった。また、「海洋教育実践に関するポスターセッション」の提案を予定していることが紹介された。

西南支部（山城支部長代理中村評議員）

支部会の開催予定について報告された。

ブレークスルー研究会（渡邉研究会会長代理小畑幹事）

シンポジウム開催、他学会との連携強化の推進の試みなどが報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会（河野委員長）

5名を加えて編集委員会を発足したこと、2015年9月末に日本語版を刊行すること、英語版を2016年1月に発行予定であること、2016年9月末には追補を刊行することなどが報告された。

２）学界関連報告

学界動向（神田副会長）

9月のJOSニュースレターに詳細を掲載していること、GRSST関連、GEOTRACESなどの学界動向について報告があった。

日本地球惑星科学連合（原田幹事）

2016年度の連合大会開催予定、参加費改訂、国際セッション提案状況について報告があった。加えて、日比谷会長からAGUとのジョイントセッション4件を日本海洋学会から推薦していること、現在の代議員選挙の状況などについて報告があった。

４．審議事項

１）名誉会員の推薦について（小畑幹事）

3名の会員が推薦候補者として提案され、承認された。調書の作成を依頼することとなった。

２）「海の温暖化（仮題）」の出版について（原田幹事）

編集委員会の設置について説明があった。加えて、河宮評議員から経緯、企画内容、章立ての説明があった。章立てについて検討を行った後、その刊行について承認した。

３）2016年以降のセッション提案制の導入について（日比谷会長）

2015年8月に評議員および会員に向けて発信したメッセージに基づき、2016年度春季大会でのセッション提案制の導入について説明があった。2016年の春季大会の状況を勘案しながらも、基本的に2016年秋季大会以降もセッション提案制の導入を継続していきたいとの提案が会長からなされた。

審議の結果、セッション制を2016年度秋季大会以降も継続する方針を承認した。なお、審議の過程で評議員から出された提案や意見は、幹事会において今後具体的な進め方を検討する際に適宜反映させていくことにした。

４）2017年度からの春学会の運営方法について（日比谷会長）

2015年8月に評議員、会員に向けて発信したメッセージに基づき、2017年度からの春季大会をJpGU連合大会に合流して開催することについて会長から提案がなされた。

審議の結果、2017年度は海洋学会春季大会を単独では開催せず、AGUと合同で開催されるJpGU大会に合流する形で春季大会を開催することを承認した。2018年度以降の春季大会については、2017年度の実績を勘案しながらJpGU連合大会への合流を検討していくことにした。なお、審議の過程で評議員から出された提案や意見は、幹事会における今後の検討に適宜反映させていくことにした。

５．その他

１）2016年度春季大会（古谷大会実行委員長代理 升本大会実行委員会事務局長）

2016年度春季大会の開催に向けての挨拶があった。

参加費について、会場費が高額であることから、発表申込料1件1000円を徴収する予定であることが報告された。

２）JpGU代議員選挙（日比谷会長）

JpGUの代議員選挙に積極的に投票して欲しいとの協力依頼があった。